

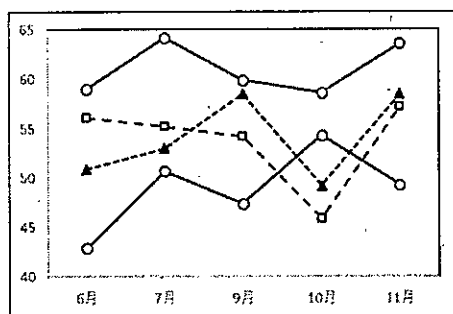
進路通信

兵庫県立北須磨高等学校 進路指導部

【成績はどのように上がるか】

模試の有効利用は十分にできていますか？自分の志望と実力の差を比較し、「できなかった問題」にしっかり取り組んで、同じ失敗をしない体制を作ることが模試の価値です。「勉強しているのに成績が全然上がらない。」と悩んでいる人も多いのではないですか？成績がどのように変化するか、過去のデータからみてみます。

右のグラフは昨年の3年生4人の成績推移の例です。どの人も最終的には6月より11月の成績が上がっているのですが、その上がり方に注目してください。毎回の模試で上がる一方、という人はなく、上がったたり下がったりを繰り返しながら、最終的に成績が伸びることが分かります。4人とも志望校に合格しましたが、そのときどきの模試の結果に応じて志望校を考え直していたら、よい結果は得られませんでした。



また、右の表は第1志望を貫いて国公立大学に合格した人の、7月模試での判定です。合格先は神戸大・神戶外大・大阪教育大・兵庫県立大などです。28名のうち13名はD、Eですが、A、B、Cの判定で半数を占めることは珍しく、48回生は7月模試の出来が大変良かったことがわかります。下段は47回生のもので、これが普通です。

	デキスギ				
	A	B	C	D	E
48回生	3	4	9	6	7
47回生	0	2	4	11	8

これが普通

【入試区分による退学率】

表は少し古いデータですが、入試方式の旧区分による退学率を示した統計です。下欄に参考として大学ごとの総退学率を載せています。入試時期の早さに比例して退学率が高いことが分かります。最後まで勉強を続け、固い意志を持って受験した人は退学率が低く、自分とのマッチングを見誤って、早い時期に合格を決める人に退学者が多いのは当然のことです。いったん入学した大学を退学し、再受験する人は年間3万人と見積もられています。ただし、コロナ以降は社会情勢の変化に伴って、経済的理由で退学する人が増えてきています。

AO	15.5%
指定校推薦	8.8%
公募制推薦	7.8%
一般入試	5.9%
京都・大阪・神戸	2.0%
関関同立	4.3%

共通テスト出願が始まり、思うように成績が伸びないと「少しでも早く決めたい」という気持ちだけが前面に出て、各種の推薦に走る人が毎年います。大学入試は多様化を求められており、総合型選抜や学校推薦型選抜などを用いて、大学は多角的に受験生を評価することになっているので、自分がそれにマッチすると自信をもって言える人なら、各種推薦を利用する価値は大いにあります。そうでなく、今になって急に「推薦を」と考え始める人は、一旦立ち止まって考えたほうがよい場合が多いです。あなたのその結論は来年の「再受験」につながりませんか？直面する困難から楽な方向に逃げて、結局大きな回り道・大きな無駄だけが結果として残ることのないように、よく考えましょう。受験勉強が辛いのはみんな同じですが、本当に勉強漬けで苦しいのは数カ月のことです。今はそれに耐えるべき時です。

